

ポストドクター等の雇用・進路に関する調査(2021年度実績)

文部科学省 科学技術・学術政策研究所 第1調査研究グループ

川村 真理 渡邊 英一郎

文部科学省 科学技術・学術政策局

人材政策課

要旨

我が国の大学・公的研究機関において研究に従事しているポストドクター等の雇用及び進路状況を把握することにより、若手研究者を取り巻く課題を分析し、今後の研究人材の育成、支援に関する施策の検討に資することを目的として、日本国内の大学・公的研究機関等 1,187 機関に対し、2021 年度におけるポストドクター等の雇用・進路に関する調査を実施した。対象機関中、1,187 機関より回答を取得し、回収率は 100%であった。また 1,187 機関のうち、2021 年度にポストドクター等が在籍していた機関は 275 機関で、前回調査時より 14 機関減少した。

2021 年度のポストドクター等の延べ人数は 13,657 人であり、前回の 2018 年度調査における延べ人数 15,590 人より減少の傾向にあった。2021 年度調査では、新型コロナウイルス感染症等の影響により各機関で移動を伴う雇用が抑制されたことに加え、URA をはじめとするポストドクター等以外の研究・開発職等へのキャリアパスの多様化が総数減少の一因となっているものとみられる。ポストドクター等の男女比は約7:3、平均年齢は 38.0 歳で、前回調査時の 37.5 歳からやや上昇した。国籍・地域別は、日本籍の者と外国籍の者の比が約7:3であった。分野は、理学が約4割で最も多く、次いで工学が約2割であった。採用前の職業は、ポストドクター等であった者が約3割と最も多かった。次年度の進路状況は、ポストドクター等を継続している者が約 7 割であった。

本調査の結果は、2021 年度においてポストドクター等として在籍したという事実を示すものであり、博士課程修了直後から継続してポストドクター等として研究活動に携わってきた者ばかりではないことに注意が必要である。